

## 子育て支援 ～生きがいがづくり推進員と地域ボランティア活動～

青少年健全育成領域 田口 許江

### 概要

近年、我が国は少子高齢化や情報化の進展、ライフスタイルの変化等を背景として、子供たちを取り巻く環境も大きく変化し、遊ぶ時間や場所が減少すると共に、学力・体力の低下が危惧されている。子供は様々な体験を通して、思いやりや豊かな人間性、社会性、自ら考え行動する力などを培い人間として成長していく。しかしながら、子供たちの現状を見ると自然体験、生活体験、社会体験が乏しくなっており、特に私は、親子の直接体験の機会が減少してきていると思っている。国立青少年教育振興機構が平成24年度実施した「青少年の体験活動等に関する実態調査」によれば、家の人との関わりの多い子供ほど自然体験や生活体験が豊富でお手伝いを多くしており、基本的な生活習慣も身につけている傾向にある。さらに、家の人との関わりが多い子供ほど自己肯定感が高く自律的行動習慣が身につけており、正義感や道徳観が高い傾向にあることが明らかになった。<sup>(注1)</sup>こうした状況を踏まえ子供たちの体験活動の機会の充実を図るため私が現在行っている「生きがいがづくり推進員」や「子育て支援サポーター」の活動の中で特に子供たちの体験活動に焦点を当てた事業に取り組む事とし、いくつかの事業をコーディネートしながら実際に展開したその中から以下の4つの事業を取り上げその成果と課題の分析を試みた。

- 1) ファミスポ SHOW カーニバル (H26・3・1)
- 2) 美術館とあそぼう！ N \* CAP (H26・5・25)
- 3) 公園であそぼう！遊びリンピック (H26・7・12)
- 4) 子どものまちフェスティバル (H26・10・19)

いづれの事業も子供たちの物づくり体験、スポーツ体験等の事例であるが、これらの事例から見えてきた成果として①普段は親子の触れ合いが少ない家庭がこうして活動に参加し、子どもと一緒に体験を共有する機会が広がり、子供との関わりを多く持つ事ができたこと②他の団体との交流によってネットワークが繋がった事の見解も多く見られた。③生きがいがづくり推進員達が子供たちに関わることで社会貢献できたことに喜びを感じていることなどがあげられる。

一方課題として、今回は①鳴門市を中心とした活動であったが今後は全県下に広げる必要があること。また②こうした事業に参加しない保護者や子供たちへの働きかけをどうするか考えなければならぬことなどが考えられる。

子供たちの体験活動の機会が少なくなっているなか、子供たちの豊かな成長を支えるためには、地域において意図的、計画的に多様な体験活動の機会を充実していくことが必要である。今回、実践した活動は子供たちや保護者にとっても有意義であったのは勿論であるが、それを支援したボランティアの生きがいがづくりにもつながり、ひいては地域の教育力の向上にも資するものであった。

(注1)「青少年の体験活動に関する実態調査」報告書(平成24年度調査)、平成26年3月、国立青少年教育振興機構